

「中里村立志伝考」の構成にあたって

富水久男

慈眼寺を後にした二郎と機願は上田郷雲洞庵に行き、修行したので、小生種々調査せしむる雲洞庵は度々の火災に会い調査出来ませんでした。たゞ雲洞庵第四十世住職は中魚沼出身の者だつたとしか調査できまへんでした。だから、三十九世住職寿山大機大和尚は四十世の寿山大機大和尚とも思われます。ともあれ二郎は曹洞宗七十五ヶ寺の本寺の住職となつて鶴中の人となつたことには異論をさしはさむ余地はないようです。なお生家にある寿山大機大和尚肖像画等によつて見れば、三十九世とみるのが正しいと思われまふ。

なお雲洞庵の住職となるには、そこでの修行の後、越前の永平寺で修行したことが、想像されるのですが、そのことについては、なお調査中です。……でこの項は一応終らせて置き、後日あらためて書き直してみたいと思ひます。

雲洞庵の住職には代々名僧が多くあつたようです。

俳句「なかさと」発足の言葉

会長 岡村 春雷

村内機関紙「なかさと」を通じて長らく村内各位にお目見えした日本俳句中里支部は一応昭和三十五年十二月限り解散し、新しく俳句「なかさと」として三十年一月より新しく発足を致しました。

次に其の理由を申述べます。

(謙信)
法興和尚は雲洞庵より後信濃国佐久郡岩村田の竜雲寺に移つていたが、武田信玄とも接して両雄の長短を知つていた唯一の人と云われている。

ともあれ、この五日に亘つての柳氏の原稿の構成に當つて、多くの古文書等を読めないうちにも判読してゆく中に、種々の発見を致しましたので、来月よりそれらについて発表させて頂きます。まず田沢村庄屋、村山五郎兵衛について、立志伝考の第四話として発表致したいと思つています。

なお小生資料不十分ですので種々の御援助を頂ければ幸いです。

第二に新興俳句と申しまして文字数、季語等に制限のない俳句。

従来の私達日本俳句は古典文学を継承して居る点では伝統俳句に属するものであります。表現方法に於て選者の意見としては俳句といへども、時代の流れに即応しなくては行けない。従つて表現方法に清新味を加える必要があるという訳でお互があまりもしない頭をひねつてむずかしい文字を眺つて用いた。其の結果俳句其のものが非常に難解であると同時に一般大衆に好まれない俳句となつて参りました。そこで、色々検討しました結果此の際「日本俳句なかさと」として発足し内容を充実した上で會員各位の意見を聞いて何れかの上部に属したいという事になりました。今回発足した次第であります。

尚発足に際しては公民館事業の一環として取上げ予算化して実施する事になつておりますので安心して入会して戴けると信じて居ります。娯楽面には余り恵まれて居ない農村の青年会、婦人会のサークル活動の一環として又、教養、修養の一助として、部落単位で入会されるようおすゝめ致し

まして発足の言葉と致しまして、お不審の点がありましたら、十日町高校、田沢分校の関口先生までお問合せ下さい。早速返信又は説明に参上致します。

俳句「なかさと」
一声
日輪に真向水柱の命かな
桂仙
ほんやら洞太古廢墟の夢趾
清流
元旦に一年の計あれこれと
蘇舟
カンヂキをゆすりて此の地
去りにける 大泉
雪道の遠くて思ふ事多き
春雷
雪玉の如くまるびて孫の来
露丘
成人となりて逢う日の髪句
永流
いも焼きの田畑裏にはげむ
子等が甘夢(ゆめ)

刃物を持たない運動
去る一月十三日、中里村主催の下に「刃物を持たない運動」協議会が中里村公民館で開催された。

この日関係者多数が参集し中魚沼社会福祉事務所、小林主事、田沢巡査部長派出所喜多氏を中心に熱心な討議が行われた。

当日の討議は、四分科会に別れてなされたうち、特に青年婦人グループでは、刃物を持つては、親しい友人を通してこれを没集すること。子供達には、母親の注意力で小刀、ナイフの類を持たせないこと。学校では鉛筆けずりを用意すること、学校がそれらの分野に於て充分に姿勢を正して立ち向うことが重要である旨強調された。

柔、剣道大会終る
去る二月五日、田沢小学校に於て、公民館主催による柔剣道大会が盛大に行われた。

当日参集者は、選手三十名、参観者約八十名により有段、無段者別れ、紅白個人戦で行われたが、村内の猛者をもつて自認する者の集りだけに、白熱の奮戦がくりひろげられた結果、成績は次の通りである。

▽柔道無段者の部優勝者 少年 中島 富雄
大人 島田 東一
▽柔道有段者の部
一位 阿部 一男
二位 樋口 政治
三位 大島 幸蔵
▽剣道の部優勝者 渡辺 利弘(十高)



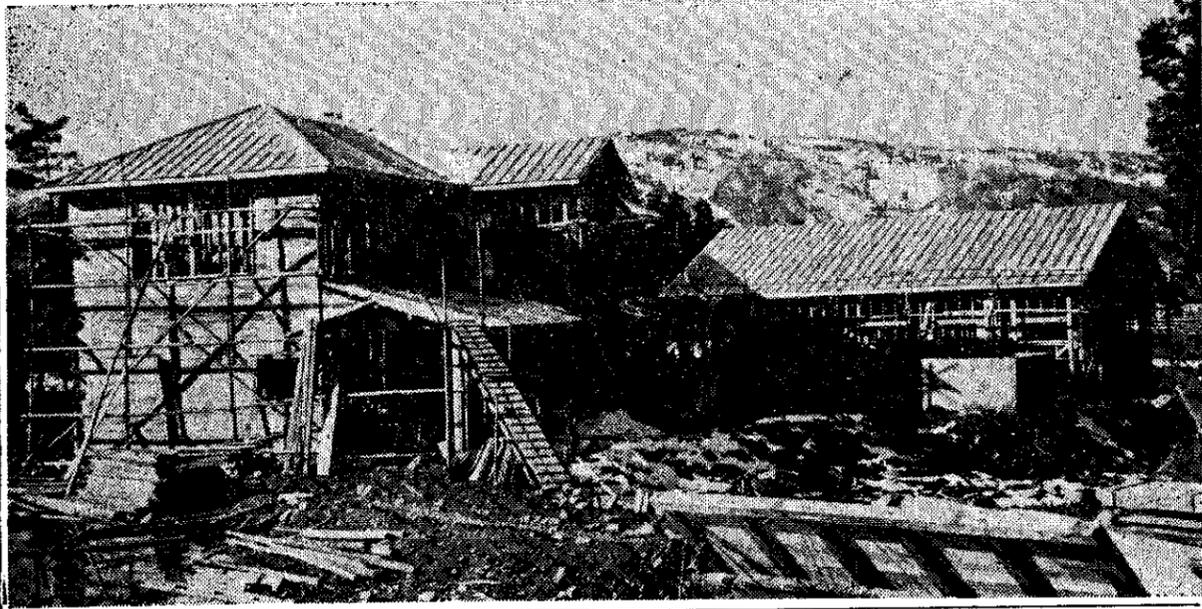
所館民所 行公所 村公所 中里印町新

田沢中学校寄宿舎の開設に當つて

田沢中学校長 佐藤 伍郎

待望の寄宿舎が完成し、分校の統合は教育の向上の見地から至当のことではあるが、色々の難問題を打破してこれを断行するのはなみ大抵のことではなない。村財政多端の折柄、村当局、議会、教育委員会の絶大な御努力のもと、実に完備した寄宿舎が新設せられ、旧来、分校生活によつて恵まれなかつた生徒諸君が、何らの不安もなく、否まことに教育的に配慮せられた生活環境の中で集団生活を続ける事ができるのは、教育当業者の一人として深謝に堪えない。

英国の大政治家には、古来、イートン中学校に多く輩出したといわれる。此の中学の寮はまことに古めかしい建物ではあるが、生徒は幾多の大先輩の英風を景



グループ活動の紹介 (一)

◇田沢地区農研クラブ

農業の近代化に遅れては畜産経営のほとんどが新らしい養豚技術などを学び、題を中心とした最近の農政の動きや、農業経営共同化の問題としんけんにとりくんでいる学習グループがあります。

このグループは、田沢地区農研クラブといつていまから二年前に誕生したもので青年団や青年学級のOBともいべき人たちが、いまでは各々農家経営の大黒柱になつて働いている三十才台の若いお父さんたちの研究グループです。いま會員は二十名、(リーダーは如来寺滝沢一さん) 大体全員が長期農事講習(十日町)の修了者でかつては青年学級農研コースで和牛肥育や水稲生育調査などのプロジェクトととりくんで学んできた人たちに毎月二回(十日二十日)の学習は月に全くしんけんそのものです。今冬に入つてからすでに二回公民館に集まつて普及員の樋口さんをかこんで

畜産経営のほとんどが新しい養豚技術などを学び、農業基本法の問題点や農政の動向などについて研究し自分たち現在の農業経営とむすびつけ考え問題をほりさげてみてこれからの農業経営のあるべき姿を描いてみたいとがんばつています。

この人たちの学習活動について村教育委員会では、社会教育のカベといわれてはなんといつても直接生産や経済の問題にむすびついて課題をとりあげて社会教育に参加してもらおうとしているので、これからの成人教育の一つのあり方として田沢地区農研クラブの人たちのようなかつての青年団活動家たちの生産学習の成果に大きな期待をもつてお世話しております。

(社教係)



「成人の日」を迎えて

新屋敷 羽鳥ヨシエ

昨年の今時分の私を振り返って見ますと、確か「成人の日」を興味なく見過ごしていた様に思いますが、そんな私が「成人式」に参加する事になり、何やら訳の解らぬ気持ちで一杯の一面、不安な気持ち一杯です。

私達同年輩の人の中には内心こんな複雑な気持ちを抱いている人も多し、想像しておきます。でもこのような心の動揺はさて置いて、こゝに「成人の日」を迎えることができたことは、非常に意義深い事であり、又これまで育てて下さった周囲の多くの人々に対し感謝の気持ちでいっぱいです。

さて私達は「この日」から、成人として法的に認められ、社会から私達が一人の人格者として扱われることになったわけで、誠にその責任の重大さを今さらながら痛感致します。なぜならば「成人の日」を迎えるという事は、他人の力を借りず、もしくは妨げられず、如何なることも実行でき

る（公共の福祉に反せず法の範囲内において）自由権が認められることになったのですから。

今までの私達は、自分の欲望や、行い発言に対する責任は未成年者という名の下の程度、保護者や社会の力で、適当に処理されて来ましたが、けれども「この日」を境に今までのような他人まかせの曖昧な態度は通らず、何事でも自分でやつたことの責任は、自分の両肩にかかり、自分の判断に負うべき事が生じた場合、それを決定し、やり遂げるだけの判断力と覚悟が大切であります。そのためにも私達は、今までのように努力を自分のものとするよう努力しなくてはならないと思ひます。

こういう心構えで接しなければならぬ事は勿論であります。成年者として欠かすことのできないもの、選挙権が得られることは、大きな喜びです。が共に緊張も禁じ得ません。何故なら、今までの何回となく

国や地方の選挙を傍で眺めて来ましたが、私達には理解し難い問題をたくさん持つて居る様に思われます。

（大人の世界の一面が如実に現われています）こういう状態の中で、私が一成年者として認められ、政治に直接参加する訳ですから、それだけに責任も重くかつて来るでしょう。それを自覚して他人の甘言に惑わされて、後に悔いることのないよう、常に視野を大きく持ち良識と知性を持つた人間として生きてゆきたいと思ひます。又一方、これから先には、私達の将来を左右する大小様々な困難な事態が沢山横たわつて来るでしょうが、それらの障壁を一つ一つねばり強く克服し、前進してゆかねばなりません。家族や先輩や友人の温かい愛情の中にあつてもなお、世の厳しさを忘れず常に切磋琢磨精進の心がけを持ちつづけたらと思ひます。

時は私達はドライだと言われます。事実年輩の人と私達とは、日常の会話の中にも何かと「ズレ」が生じています。それはいつも止むことなく移り変つて行く社会に於いては、この様な多少の意見の違いが生じて来るとは当然でしょう。又、そうでなくては進歩もないと思ひます。

たゞ私達が忘れてならないことは、今日のこの社会は私達の先祖によつて引き継がれ、築き上げられて来た長い歴史の所産なのだといふことです。そういう意

施設の改善 (一)

畜舎、畜舎の内でも、牛馬のそれについては大体前にも述べたが、その他にも豚舎や羊舎等は兎や狐、狸などの畜舎が有る畜舎として多角的に経営される場合には必要となつて来る。兎は多く飼養されるので特に畜舎は必要ではない。然し他の畜舎はいづれも極めて粗末であり、且つまた、不潔なものが多い。人間や家畜にとつて、保健衛生上面白くないばかりでなく、却つて、生産率を下げることもあるので注意しなければならぬ。殊に豚舎は、従来不潔にすることが当り前であり、又却つてその方がよいようにさえ誤解されている傾向にある。然し豚舎は元素清潔を好む動物であるから、豚にしてみれば随

分迷惑なことであるが、とに角、敷地内に不潔な畜舎のあることは、人間にとつても見のがせない問題である。畜舎は採光、通風よくして清潔にすること。なるべくならば、母家から離して建てることをもう一度強調して置きたい。

堆肥場、堆肥場や肥料溜といふものは、その本来の性質からいってとなく非常に不潔になりやすい。堆肥は農家の自己肥料として最も重要なものであるから、費用さえ許せば堆肥舎に設けることに越したことはない。堆肥舎には、屋根をかけて日光の直射を防ぎ切返しを充分にし、汁の逃げないようになければならぬ。良質の肥料を得ることは出来ない。

屋外堆肥の場合、コンクリートで地面に盤をつくらせて汁を溜め充分切返しを行つて汁を常に堆肥にかけようとするに配れば、時によつては却つて良い堆肥を得られ、従つて経済的になることになる。それであるから、必ずしも、高い費用をかけて堆肥舎を建てるばかりがよいともいえない。

堆肥舎の壁は高さ五尺位迄をコンクリートや煉瓦、或は石などで積み上げ、その上に木造の建築をつくる。そうしないと、積んだ堆肥のために木部が腐つてしまふからである。暖かい地方で一方を全部開放的にしたものはよいが、そうでない場合は壁に開閉の出来る無双窓のようなものをつつて屋内に発散した瓦斯をとどめて置かないようにする。

堆肥盤は直接堆肥が雨にかかり、肝腎の肥料としての価値のある成分を流してしまふので、床には必ず、適当な勾配をつけて汁が流れ出ないように溜に導くようにする。野天であるだけに乾燥し易いから、度々切返しをしては、その汁をかくてやり、万遍なく腐熟するようにしなければならぬ。

畜産共同経営

現地ルポ

津南町米原

大割野からバスで開拓実験農場入口まで一それから段丘地の急な坂道をアエギアエギ登ること約三十分で頂上へ出る。こんな山の上によくもこれだけの平坦な土地ができたものだと感心する位の広い耕地が展開された。標高四六〇メートルともなれば、吹く風までが涼しく汗ばんだ肌心地よくしみ通る。

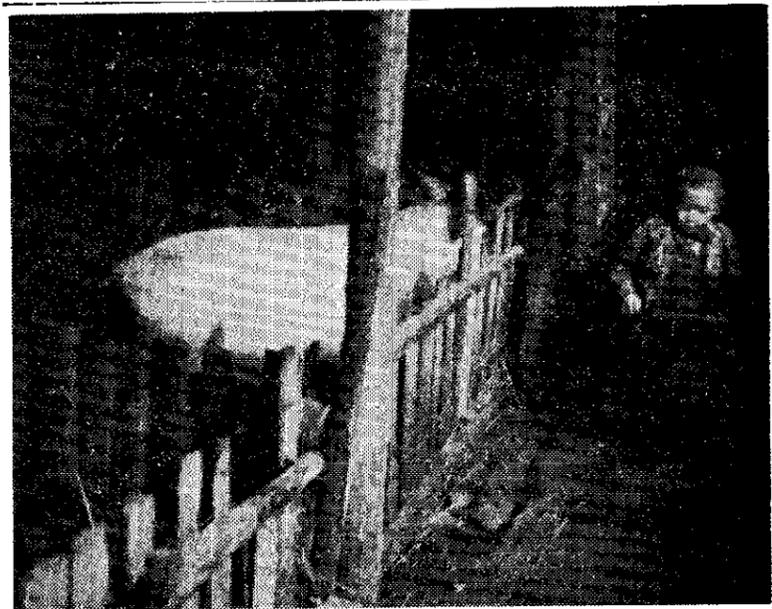
実験農場の赤い屋根の向うに瓦葺根の大きな建物が見える。これが、話題の共同経営の畜舎だ。

近づくにしたがつて巨大なサイロがハッキリ見えて来る。畜舎の入口で真黒に陽焼けした組合長の大口寅治氏に迎えられる。舎内に入つた。「居るわ〜」黒や褐や混りのものが、四間二十間の豚舎の区切られた房の中に奇声をあげながら動き廻つて居る。

「現在百拾頭居ります」と説明してくれた。一まわり見まわしたところで二階にある事務室に導かれた。

「私共のような環境の悪い所では、どんなに考えても他の産業に従事している人や、都市近郊の農家のような生活ができないばかりかダン／＼遅れてしまふこと

がはつきりしているの、何人かが力を合わせれば現在よりは経営も合理化して生活の安定ができるだろうと、五人で最初は豚の共同飼育を相談し合つたのです。自給飼料の栽培やら、飼育労力等、計画を進めて行くうちにこれだけでは反つて無理が来るのがわかつたので、経営の全部を共同化することにしたわけなんです。」五人の耕地は田五町



五反、畑三町二反で本年の計画田一町二反を飼料栽培に廻して飼料の自給を一番強く打ち出している。来年は更に田を減らして牧草栽培に切りかえらうと。これで浮いた労力は明年から畜舎の二階に鶏二千羽を飼育する計画だ。豚は本年一三五頭、明年以降五百頭を出荷すると意気込んでいる。

これだけのことをやるには資金も大変で約五百万円

母子衛生対策に乗り出す

村に対策協議会発足

未熟児、妊産婦、肺炎、気管支炎。

中里村が統計上乳児の死亡・妊娠中絶・死産が比較的高率であるという県の地区診断により、昨年八月母子衛生特別地区に指定されたことは既に新聞紙上、その他で御存知のところであり、今、村にこれら対策協議会を設け次のようなことを強力に継続して推進することになり、先ず、みなさんの御協力をお願いいたします。

先ず、根本的な対策としては、

【第一に未熟児】
【第二に妊産婦】

【乳児の定期検診】
従来年二回全部について実施してきたが、今後この中の要留意見については、毎月医師の協力を得て検診及び、相談を行う。なお、来検診者については家庭訪問で指導する。

【発育不良児の健康相談】
家庭訪問で指導するようにする。

【妊婦の早期届出について】
妊娠したものは、おそくとも四カ月前までに医師又は助産婦の妊娠証明書を添えて届出をしよう。

【優良乳幼児の表彰】
前年四月から毎年三月迄に生まれた乳幼児の一カ年の状況について、次に該当する乳幼児とその母親を表彰する。

【特に心身に発育優秀なもの】
年間十回以上受診し発育良好なもの
母乳不足のため、混合栄養、人口栄養、又は早産など、育児に困難な条件の中にあつて保護者の努力により良好な発育をみせたもの

【母子衛生大会】
毎年一回村一円とした大会を開催、講演、体験発表会などを行う。

味からも次の世代を背負つて行く私達は偉大な未来の歴史の創造者としての誇りにもえて、たゞ自らの理想が、私達の微力では今即ち実現され得ないにしても、自分の与えられた現実の場に於てだけでも確実に大地を踏みしめ着々と躍進してゆきたいものです。

堆肥場、堆肥場や肥料溜といふものは、その本来の性質からいってとなく非常に不潔になりやすい。堆肥は農家の自己肥料として最も重要なものであるから、費用さえ許せば堆肥舎に設けることに越したことはない。堆肥舎には、屋根をかけて日光の直射を防ぎ切返しを充分にし、汁の逃げないようになければならぬ。良質の肥料を得ることは出来ない。